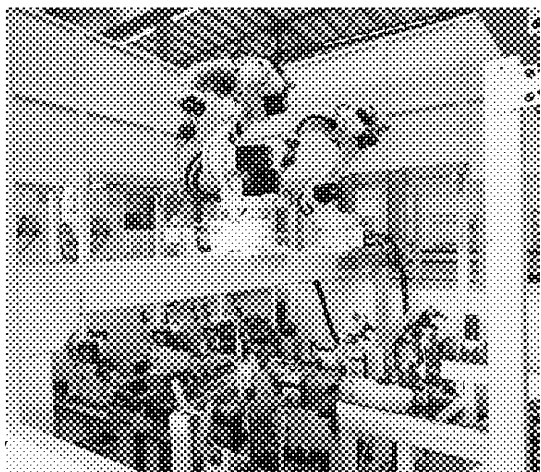


# タイで溶接装置参入

## 山田マシンツール、日系車向け

山田マシンツール(東京都台東区、山田雅英社長)は、ピックアップトラック用シャシーフレーム溶接ライン構築事業に参入した。主力の工具販売で培ったつなかりに加えて、経験豊富なエンジニアの採用で実現し、このほどタイに進出する日系企業の拠点内での工事を完了した。日本だけでなく東南アジアでも自動車産業の強固だった系列が崩れつつあり、系列外への発注が増えているようだ。

山田マシンツールは、の日系自動車部品メーカー・チョンプリー県の工場内に大型溶



タイで試作した溶接自動ライン

接自動ラインを構築。全長約100mで合計42台の溶接ロボットを配置し、工期は4カ月半で7月までに納入した。

「6年前ぐらいに当社の現地法人に転職してくれた日本人社員が優秀な溶接技術者で、工場の自動化をいろいろ手がけていた。トラックのフレーム向けをやっていた業者がでなくなってきたので巡ってきた」(山田社

長)と地道な実績づくりが奏功した。

現地の協力会社を含めて約55人を常時投入して短納期を実現した。「中小の連合でこのような大仕事を成し得たというのは誠にまねなケースだ」(同)とし、新たな中小連携の枠組みを示した。

同社は刻印機などの機械工具を主力とするが、今回の溶接以外にも、インドなど海外でも工場関係のシステム構築を手がける。

刻印機的设计・製造ノウハウを生かし、生産拠点の制御盤更新から工程の自動化まで網羅し、事業の多角化を進める。